



木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2023年3月12日(日) 9:30~12:00 (曇り|晴)

参加者 一般:3名

指導員:4名

テーマ 動き始めた虫を探してみよう!

虫が地中から出て動き始めるという啓蟄(今年は3/6)も過ぎ、暖かくなってきたのでテーマは「虫」です。

朝、出かけるときには雨がパラパラしましたが、曇り空の下で観察会がスタートしました。

咲き始めたトサミズキやヤナギ類の花には、セイヨウミツバチやハナアブの仲間が来ていました。10時過ぎに陽が差してきたらベニシジミが飛び始めました。羽化したばかりの感じのきれいな個体です。チョウはテングチョウ、キタテハ、キタキチョウ、モンシロチョウ、モンキチョウといったこの時期おなじみの顔ぶれが揃いましたが、目をひいたのは見かけないシジミチョウの仲間です。現地ではトラフシジミかと思いましたが、家でデジカメ写真を確認したところ、これまで見たものとは色合いや模様の雰囲気は違いますが、ウラナミシジミのようです。旅するチョウとして知られ、四国や紀伊半島で越冬して繁殖を繰り返しながら移動し、秋に多く出現します。こんな時期に見られるというのは、この辺りでも越冬しているのでしょうか。

花はハクモクレン、コブシ、アメリカハナノキなど樹木の花が目立ちましたが、川原でモミジバヒメオドリコソウ(別名:クレハヒメオドリコソウ)を見つけました。ホトケノザと外来のヒメオドリコソウの交雑起源と言われ、葉はヒメオドリコソウに似ているものの鋸歯の切れ込みが深く、花の形状は両種の間隔的なものとなっています。最近、増えているのか尾張地域でも時々見かけるようになりました。

野鳥はというと、ウグイスの囀りが随所で聞かれ春らしさが感じられましたが、例年なら北帰に備え川原にツグミが数十羽群れている頃なのに、今季は個体数が少ないのか、コースを歩いている間に数羽出会っただけでした。昨年、オオタカが営巣した「もくもくパラダイス」の林では、キツタが切られ、枯れた葉を付けたままの蔓が樹に絡まって無残な姿をさらしていました。オオタカのメスが飛来して近くの木に止まりましたが、環境が変化していて営巣するかどうか心配です。(報告:齋竹)

<その他見られたもの>

花: シナレンギョウ、ユキヤナギ、ベニバスモモ、ミヤマウグイスカグラ、ヒユウガミズキ、サンシュユ、ネコヤナギ、ハナノキ、ニホンタンポポ、ツメクサ、ホトケノザ、オオイヌノフグリ、スミレ、スズメノヤリ
鳥: トビ、カワウ、ハクセキレイ、キジバト、ヒヨドリ、ムクドリ、スズメ、モズ、メジロ、アオジ、ホオジロ、シジュウカラ、コゲラ(声)、シロハラ、シメ、カワラヒワ、ハシボソガラス、ハシブトガラス
虫: ナミヒラタカゲロウ(亜成虫)



(堤防道路の脇でチョウを観察中)



咲き始めたトサミズキ



柳の花に来たセイヨウミツバチ



こんな時期にウラナミシジミ



モミジバヒメオドリコソウ